



特集
ありがとう 鷹島分校
—56年の歴史に幕—

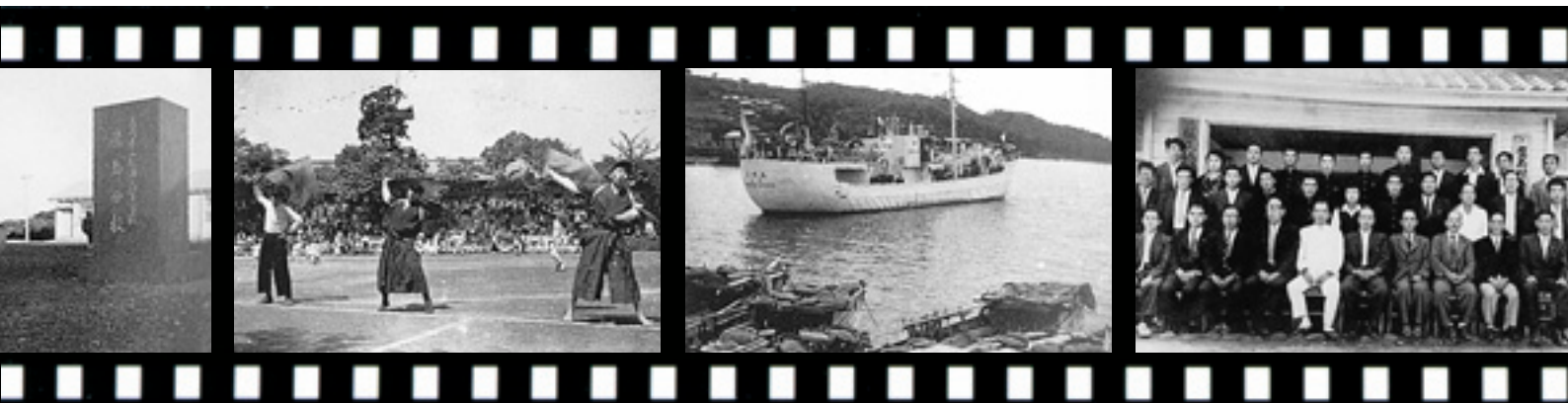
県立松浦高校鷹島分校が平成18年3月で閉校となり、56年の歴史に幕を閉じました。

今月号では、鷹島分校でのこれまでの写真や、3月4日に行われた「閉校記念式典」、最後の「卒業証書授与式」の様子などを紹介します。

鷹島分校のあゆみ

- 昭和25年6月8日
 ・ 県立長崎水産高等学校鷹島分校・夜間定時制開校
- 昭和30年4月1日
 ・ 県立猶興館高等学校鷹島分校と改称
- 昭和39年4月1日
 ・ 普通課程の生徒募集
- 昭和44年4月1日
 ・ 全日制に切替発足
- 昭和50年代前半
 ・ 県立松浦高等学校鷹島分校と改称
- 平成16年4月1日
 ・ 全校生徒数が300人を超える
- 平成18年3月4日
 ・ 新入生の募集を停止
- 平成18年3月4日
 ・ 閉校記念式典開催

鷹島分校 思い出アルバム



周年記念 (昭和46年)

運動会 (昭和29年度卒業生)

長崎水産高校練習船「長水丸」阿翁浦に入港 (昭和29年)

長崎水産高校第1回卒業式 (昭和28年度卒業生)

2千2百人を送り出した鷹島分校 閉校記念式典で別れを惜しむ

鷹島分校は、昭和25年に県立長崎水産高校鷹島分校として開校後、2度の移管を経て、松浦高校鷹島分校となりました。56年間の卒業生は延べ2,202人。ピーク時には、佐賀県からも多くの生徒が通学し、全校生徒は300人を超えていました。

3月4日の閉校記念式典では、本年度卒業生が代表して、立石眺^{たかし}県教育長に校旗を返還。そして、閉校事業推進委員長の市原義光同窓会長が在学中の思い出を交えたあいさつをしました。記念碑除幕式では、同窓生、旧教職員、地元の有志らで作られた記念碑が披露されました。式典に出席した同窓生や旧教職員、地元住民ら約220人が最後の校歌を会場の体育館いっばいに響かせ、56年の歴史に幕を閉じました。



本年度卒業生の若松君が校旗を返還



市原同窓会長があいさつ



記念碑の除幕の様子



校歌を斉唱する出席者

※写真は同校提供

鷹島分校 思い出アルバム



航空写真人文字（昭和49年）



肥前町からの通学生（昭和46年度）



相撲部（昭和41年度）



創立20
「門柱」建立

思い出を胸に新たな旅立ち

分校最後は5人の卒業生

開校以来、2、197人の生徒を送り出した鷹島分校。

3月4日には、最後の卒業生の卒業証書授与式が行われました。

最後の卒業生となったのは、若松鷹治君、大石志穂さん、柳満子さん、山本千春さん、渡邊いつみさんの5人。

式では、卒業生5人が青崎孔校長からそれぞれ卒業証書を受け取りました。在校生がいない5人への送辞は、担任と副担任の3人から。答辞は卒業生5人が壇上へ上がり、それぞれの思いを涙ながらに述べました。

この日は、本校の吹奏楽部も出席し、校歌等を演奏。その演奏にあわせ校歌を斉唱しました。式が終わると、出席者約220人は、新たな旅立ちに向かう5人を、たくさんのお手で送り出しました。



送辞を述べる副担任の教諭

卒業生からひとこと

若松鷹治君（阿翁浦、写真右）

3年間とても楽しかったです！2年間富山県で漁師の研修を受けた後、鷹島町で漁師をします。

大石志穂さん（中通、写真後列中央）

充実した3年間でした。少人数でも力を合わせてなんでもできたことが自信につながりました。

柳 満子さん（阿翁、写真後列左）

高校生活が楽しくて、人と

話すことが大好きになりました。今後は接客の仕事につきたいです。

山本千春さん（三里、写真前列右）

同級生からたくさんのお出をもらいました。大村市の看護学校に働きながら通います。

渡邊いつみさん（唐津市、写真前列左）

3年間てたくさんのお出ができました。今後は鷹島の石工業社で働きます。



閉校記念誌と

DVDを制作

鷹島分校の歴史を後世に残そうと閉校記念誌とDVDを制作しました。

閉校記念誌

分校の職員で制作。惜別の辞や旧職員や同窓生の寄稿、思い出のアルバム、学校の沿革などが掲載されています。A4版、全71ページ。



DVD

「さようなら 鷹島分校」

分校最後の卒業生5人と職員で制作。鷹島や分校の歴史紹介、初代卒業生の講話や、鷹島で働く同窓生、分校の恩師を訪ねてうかがった話などが収録されています。40分。

